

事業報告

公益目的事業

平成25年12月20日付 公益法人に移行し、平成26年3月31日までに寄付森林の適切な持続的管理を通し、吉野林業の森林育成技術の継承・発展および森林に関わる環境教育の推進による一般社会への啓蒙を推進しつつ、その収益により学術研究活動の奨励及び振興を図る公益目的事業を以下の通り実行した。

1 学術研究者に対する研究助成金交付に関する事業

森林に関わる学術研究および技術研修 医学・看護に対し奨励助成金を下記のとおり助成した。

事業科目 (助成事業)	決算額	事業内容	公募等の形態
学術研究助成 3件 1) 京都大学大学院情報学研究科 准教授 小山里奈	円 500,000	市街地に隣接した草原生態系における哺乳類の生態に関する研究	奨学寄付金
2) 京都大学大学院農学研究科 教授 高野俊幸	500,000	超臨界二酸化炭素を用いた木材の化学加工に関する研究	奨学寄付金
3) 京都大学フィールド科学教育研究セン 教授 徳地直子	500,000	森林生態系の物質循環からみた環境保全機能の解明	奨学寄付金
小 計	1,500,000		
特定研究等助成 2件 1) 京都大学大学院医学部附属病院 看護部長 秋山智也	300,000	看護部の看護教育に対する研究助成	奨学寄付金
2) 京都大学フィールド科学教育研究セン	300,000	森林施業計画のための調査及び技術研修助成	奨学寄付金
小 計	600,000		
合 計	2,100,000		

2 森林に関わる学術研究に関する事業

当奨学会が管理・所有する森林は吉野林業地にあり、高齢樹・高品位の優良材の産地である。しかし、近年の林業の衰退により、高齢樹の人工林育成の技術の継承が困難となっている。育成技術は熟練者の持つノウハウとして蓄積継承されてきており、学術的には未解明の部分が多く、技術指針としてマニュアル化することは重要な課題、地域の発展に必須のものである。そのため、奨学会では森林の生育過程をモニタリングする継続的な調査プロットを杉谷山林の第1～第12林班に設置し、学術調査を行っている。調査資料をもとに高樹齢の人工林育成技術の解析を行い、その成果を学術誌に公表している。

3 森林の保全及び整備に関わる教育・指導に関する事業

当奨学会の森林は急峻な山地にあり、森林の管理経営の基盤として作業道を開設している。作業道による基盤整備と森林保全は相対する面が多いが、専門家の指導により適切に開設・管理しており、支障なく森林経営に貢献している。この技術やノウハウを当奨学会の森林を事例に、専門家の協力を得、広く森林経営者に啓蒙活動を行う。

4 森林を主体とした自然環境教育に関する事業

当奨学会の森林はスギ・ヒノキの人工林から成り、さまざまな樹齢の林がある。なかでも樹齢150年以上の大径木の林は自然への畏敬の念を奮い起こす。このような林を利用し、自然と人間の生業を多くの人々特に学生に体験させ、その重要性を学ばせ、環境・教育活動を行う。

5 寄付森林の管理運営に関する事業

当奨学会の森林を環境との調和を図りつつ、持続的な木材生産のために管理し適切な奨学のための収入を確保する事業を行った。森林育成に必要な造林(保育)、調査、施設整備事業を下記のとおり実行した。

事業科目	決算額	事業内容
造林事業	円 2,029,336	杉谷山林第12林班 スギ・ヒノキ間伐地の残存木 片付整理 昭和34, 35年度植栽 面積 5. 5ha " スギ雪害木(冠雪害)伐採整理 昭和36年度植栽 面積0. 65ha
調査事業	996,435	杉谷山林第4林班 スギ・ヒノキ造林地(老齢林) 立木(間伐)調査地刈払 面積4. 96ha
施設整備事業	1,277,545	杉谷山林第1～7. 11林班 作業道修理(崩土除去、路面、排水溝各所施工) 距離 4, 162m 幅員 2. 50m 杉谷山林第1林班 木材集積場 土場 災害復旧工事
小計	4,303,316	
賦課金	250,000	立木売払いに伴い吉野中央森林組合に立木売買価格の2%支出
協力金	100,000	東吉野村杉谷区と申し合わせによる支出
減価償却費	54,574	
合計	6,807,890	